全農 JA全農いばらき

営農 News　令和７年１月７日　第3209号

スクミリンゴガイの冬期防除対策について

（水稲、レンコン）

スクミリンゴガイ(通称ジャンボタニシ)は南米原産の淡水巻貝の一種で、特に柔らかい植物を好み、稲（田植え直後の稚苗）やレンコン（幼葉）などを食べます。茨城県内においても水田圃場やレンコン田で発生が確認されています。

本種は寒さに弱く、土中に潜って越冬しますので、圃場内の越冬密度を下げる対策が重要です。特に、暖冬の年は越冬する個体数が増加傾向となることから**冬期の耕うん**を行い、次作の発生を抑えましょう。

参考資料：スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（移植水稲）農林水産省消費・安全局植物防疫課（R5）
sukumi_manual.pdf (maff.go.jp)
水稲スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）　病害虫資料館　茨城県病害虫防除所
水稲-スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）／茨城県（pref.ibaraki.jp）

特　徴

写真１　スクミリンゴガイ成貝

写真２　スクミリンゴガイ卵塊
（写真１、２：茨城県病害虫防除所）

写真３　稲茎葉での卵塊
（卵径2㎜）

レンコン茎での卵塊

成貝は殻高が２～７㎝で、稲や水路の壁等にピンク色の卵塊を産む。寒さに弱く、越冬個体は地表からおおむね深さ６㎝以内に分布している。

また、水路を伝って拡散・定着し、水路に隣接する圃場では取水時や大雨の浸冠水時等に圃場に侵入する。

防 除 対 策

1～2月の防除対策

① 水田では、**1～2月の土壌が乾燥して固い時期に、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くし、土壌を細かく砕くように耕うんする**ことで、越冬個体を物理的に破砕するとともに低温の外気にさらす。複数回行うと効果が高まる。

② 本種未発生の圃場へ越冬個体の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターを洗浄し、付着した泥を落とす。

③ 発生が多い圃場に隣接する水路や本種のピンク色の卵塊を確認した水路においては、**1～2月に泥上げを行い**、越冬場所をなくす。掘り上げた泥は薄く広げて越冬個体を低温の外気にさらす。さらに潰すなどして生き残らないよう処理する。

④ 水路の泥上げは地域全体で行うと効果が高まる。また、**掘り上げた泥は、未発生圃場に持ち込まない。**

春夏期の防除対策

① 田植え前まで

・水路から貝が侵入しないよう取水口・排水口へネットや金網を設置する。
（９mm程度の網目がオススメ）
（小さい貝はネットをすり抜けるので、浅水管理や農薬散布を併用する）

・殺貝効果のある石灰窒素を散布する。

② 田植え時以降（浅水管理か薬剤散布のどちらかを選択する）

・**浅水管理**：本種は水中でないと摂食できず、また水深が浅いと活動が制限されるため、水深を ４ｃｍ（理想は １ｃｍ）以下に維持する。

・**薬剤散布**：本種は水温 15℃以上で活動するので、動いているのを確認してから**スクミノン（効果：殺貝）、スクミンベイト３（効果：殺貝）、パダン粒剤４（効果：食害防止）**を散布する。その際水深は３～５ｃｍに保つ。

※**パダン粒剤４**を散布すると貝がマヒしてスクミノンやスクミンベイトの殺貝剤を食べなくなるので、併用はしないで下さい。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News はＪＡ全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部　営農支援課　　電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040